

携帯電話の成長の歴史

～それによる利益と不利益～

米倉雅也

序

1. 世界で最初の携帯情報端末
2. 車載電話機の誕生
3. ポータブルタイプの実用化へ
4. 多機能化による差別化
5. 第三世代携帯電話時代
6. そして現代のスマートフォンへ
7. 普及による犯罪利用
8. 携帯電話の悪用

結 論

序

最近普及し始めたスマートフォン、タブレットなどの携帯情報端末。今ではもう持たれているのが半ば当たり前の時代になってきている。そこで今日までに至る携帯電話の成長、普及の歴史を概観してみよう。これによって技術進化の典型例を知る事に繋がるだろう。

1. 世界で最初の携帯情報端末

携帯電話の構想自体は、電話機が考案されて間もない時から既にあったが、電波のノイズ、バッテリー、通信速度の問題から非常に大型になってしまうため、実現は難しかった。

携帯電話の前身とされるのは、第二次世界大戦でアメリカが使用したモトローラー製の”Walkie Talkie”というトランシーバーで

ある

1960 年代になると、両手で持ち運べる程に小型化が成功したもの、短時間持ち運ぶと腕が疲れる程の重さだった。1970 年代にようやく何とか片手で持てる程の大きさに小型化が成功された。

2. 車載電話機の誕生

1970 年に大阪で開催された日本万国博覧会にワイヤレスフォン（今で言うコードレスフォン）が出展され、1979 年には日本が世界初の実用化に成功した。ただこれは車載電話機を使った電話サービスであり、車内で電話が出来るだけのものであるために現在の携帯電話とは大きく異なるものであった。

車載電話というのは、その名の通り自動車に搭載されている電話の事であり、本来は業務用としての用途に使われるのがほとんどだった。

3. ポータブルタイプの実用化へ

日本に初めて登場した携帯電話機は、1985 年 9 月に NTT がレンタルを開始したショルダーフォンの 100 型といわれるものである。

しかし、これは電話機自体の重さが約 3kg と重く、携帯時にはショルダーバッグのように肩にかけて持ち運ぶ必要があったため、携帯電話というよりは車外でも使える車載電話という位置付けに近かった。

そしてその 2 年後の 1987 年に NTT から重量 750g の「携帯電話」が発売されたこととなった。

4. 多機能化による差別化

1990 年代になると携帯電話の普及が進み、本体に液晶ディスプレイ

イが搭載され始める。

1990 年代半ばには通信方式がアナログからデジタルに移行した。着信音を任意の音楽に設定できる着メロや、メッセージサービスなど様々なサービスが使えるようになった。

1990 年代には i モード(この i は「インタラクティブ」「インフォメーション」「インターネット」の頭文字である i、そして「私」を表す i であるとされている)が日本でスタートし、携帯電話によるインターネットへの接続が可能になったうえに、通信速度の向上や java (プログラミング言語の一種であり、非常に多くの分野で使われているもの) を使ったアプリケーションが楽しめるようになった。

5. 第三世代携帯電話時代

2000 年代になると第三世代携帯電話が登場する。

第 3 世代携帯電話とは過去の携帯電話と比較して、高速なデータ通信を可能としており、高品質な動画や音楽の視聴が可能になったうえ、テレビ電話機能などの様々なマルチメディアサービスを提供できる端末の事である。

この時代から世界どこでも同じ携帯が使える国際ローミングという機能も実装されるようになる。

6. そして現代のスマートフォンへ

このような成長の歴史を背景に 2008 年には日本でソフトバンクモバイル製の iPhone が発売された。発売から 3 日で全世界 100 万台の売り上げを記録し、日本のスマートフォン業界に大きな影響を与えた。今では Andoroid、Windows Phone などスマートフォン市場の展開は拡大している。

iphone と Andoroid の主な違いは OS(基本ソフト)の違いや日本独

自機能(おサイフケータイ、ワンセグ、赤外線通信など)を搭載しているか否か、利用できるマーケットの違い(iphone は App Store、Android は Google Play)などである。

7. 普及による犯罪利用

このように長い歴史を経て現在、携帯依存症という言葉が生まれるほどの携帯電話普及率になった。携帯電話を所持する生活が定着してしまった今、携帯電話のない生活に不便を感じることも多々あるだろう。

しかし、それによって犯罪に利用される事案も発生するようになった。

次の項で一例としてチェーンメール事件について取り上げる。

8. 携帯電話の悪用

2002 年 5 月徳島県で、携帯電話を使い同級生の女子高生(当時 16 歳)を中傷するメールを顔写真付きで不特定多数の人に送信したとして、同じ高校の女子生徒 4 人(いずれも同級生)が名誉毀損の疑いで書類送検された事件があった。

このように軽い気持ちで行ったいたずらが犯罪になってしまうと言った事案は、今ではツイッターによる犯罪自慢などに姿を変えて、今もなお起きている¹。

結 論

このように携帯電話は利便さを進化させていく傍ら、犯罪利用や

¹ Benesse「情報端末の多様化で増える子どもの犯罪被害」(2014 年 10 月 20 日最終更新)<<http://benesse.jp/blog/20141020/p1.html>>。

モラルの無い利用によって機能を不正な事に使われてしまう事が多々見受けられる。

しかし、だからと言ってこのような技術進化を止めてしまうのはあまりにも惜しい。

先ほどまでの分析に書いたとおり、昨今スマートフォンは爆発的に普及している。そうであるならこの進化し続けるツールを上手に使うべく、メディアリテラシー、ネットマナーをスマートフォンを使って配信する事で、使用者のモラルを上げていくなどの対策を取る必要がある。

主要参考文献

携帯電話の歴史に関しては主として以下の資料に依拠し、多少の独自の追加修正を加えた。

年代流行「携帯電話の歴史」『年代流行』（2014年11月20日最終更新）< <http://nendai-ryuukou.com/keitai/> >。